

Jabra GN



WEB会議なのに自然な相槌も打って会話しやすい! 真横まで映る180°の視野角で部屋を無駄なく使える 中小規模の会議室にも最適な一体型ビデオバー

音響制作やゲーム開発、3DCG制作なども手掛けるC R Iグループ。その中核企業としてミドルウェア開発を担っているのが、株式会社C R I・ミドルウェアだ。同社の新オフィスには、スピーカーフォン『Jabra Speak 750』と、WEBカメラ『Jabra PanaCast』。そして、カメラとマイクとスピーカーが一体となったビデオバー『Jabra PanaCast 50』が導入されている。

WEB会議は話しにくいものと諦めていたが 高音質と「相槌」で自然な会話が叶った

「各メーカーの製品を取り寄せてテストした結果、パフォーマンスとサポートが一番良かったのがJabraでした」

そう話すのは、同社執行役員の横山さん。

「前々からWEB会議の質は課題で、特に音声は『ノイズがひどく、発言を聞き取ってもらえない』という問題が多発。様々なデバイスを試しても解決しなかったので『WEB会議はこういうものだ。仕方ない』と諦めていました。しかしPanaCast 50やSpeak 750を導入すると音質が驚くほど良くなり、聞き返されることが激減!会議の質も大幅に向上しました!またPanaCast 50はノイズキャンセルも優秀。実は今も近くで大型の空気清浄機が稼働しているんですよ」WEB会議越しの横山さんにそう言われて耳をすましたが、空調やモーター音は一切私たちに聞こえなかった。

続けて横山さんは、Jabraのおかげで「相槌」の重要性に気づいたと語る。「これまでは相槌を打つだけで相手の声が途切れてしまっていたので、トランシーバーのように相手の発言が終わるまで何も話せませんでした。Jabraは自分と相手が同時に発言しても声が途切れない『フルデュプレックス(全二重)』。対面での会話や電話のように、話の途中でテンポ良く相槌が打てるようになり、会話が格段に自然になりました!」



Company

Customer : 株式会社C R I・ミドルウェア

Website : <https://www.cri-mw.co.jp>

Country : 日本

Profile

1983年創立。2014年に東証マザーズ上場。ミドルウェア開発、ゲーム開発、音響制作、3DCGアニメ制作など、幅広い分野に展開するC R Iグループの中核企業。「音と映像で社会を豊かに」を企業理念に掲げ、ミドルウェア製品の研究開発・販売・サポート、及び関連する受託開発などを行っている。ゲームで培った技術を用いて、自動車、エレクトロニクス、WEBなど、活躍の場を拡げている。

Jabra Solution

Jabra Speak 750

- 商品番号 7700-309(MS)/7700-409(UC)
- 標準価格 ¥48,400(税抜)
- 想定使用人数 1~6名

Jabra PanaCast 50

- 商品番号 [ブラック]8200-232
[グレイ]8201-232
- 標準価格 ¥159,500(税抜)

Jabra PanaCast

- 商品番号 8100-119
- 標準価格 ¥92,400(税抜)





180°の視野角で部屋を無駄なく使える サイズ感も6席ほどの会議室に最適

映像に関してはノートPC内蔵カメラや安価なカメラを使ってきたという同社。オフィスの新設を機に本格的なカメラを導入することになり、そこで横山さんが見つけたのがPanaCastだった。「はじめて見た時はパノラマ映像と画質の美しさに衝撃を受けました」と話す横山さん。PanaCast 50とPanaCastについて、こう評価する。

「視野角180°でカメラの真横まで映るので『会議室のスペースを無駄なく使える』と周囲からも好評です!そして何より画質が良い!他社のカメラから変えた時はWEB会議の相手に『横山さん綺麗になりましたね!』と褒められました(笑)。無料ソフト『Jabra Direct』で設定を変えられるのも便利で、顔を自動追尾する機能の反応感度を調整したりと、自由にカスタムしています」

また、横山さんはPanaCast 50の選定の決め手についても語る。「最後の決め手はサイズ感です。他社の一体型ビデオバーも取り寄せたのですが、想像以上に大きく、6席ほどの会議室には置けませんでした。PanaCast 50は逆に小ささに驚きました。よくぞこのクオリティをこのサイズに収めたに関心しましたね。軽量なので壁に取り付ける際の補強も、最低限なもので十分です!PanaCastに至っては更に軽量で、何の補強もなしに壁に取り付けられます!」



「1本挿せば全て繋がる」という安心が 日々の業務で使ってもらおう秘訣

同社ではPanaCast 50をハブと組み合わせることで、USB-Cケーブル1本で接続できるようにしている。これが社員から非常に好評だと横山さんは言う。「これまではWEB会議の度に、カメラを繋げて、マイクとスピーカーを繋げて、バッテリー残量が少なかったらコンセントも繋げて…と、セッティングに手間がかかっていました。PanaCast 50とハブの組み合わせならUSB-Cケーブル1本繋ぐだけでモニターなども全てが繋がり、おまけに給電までできます。社内にはPCに詳しい人間も多いですが、彼らでも面倒なデバイスは使いたがりません。多くの人に使ってもらうには『1本挿せば全てが繋がる』という安心感が重要なんです」

最後に横山さんはJabraのアフターサポートについても語ってくれた。「相談したいことがありカスタマーサポートに連絡した際、知識を持った専門スタッフと直接話すことができたのが嬉しかったですね。タライ回しにされることなく、誠実に向き合ってくれたからこそ、こちらも真剣に相談することができました」

様々なWEB会議デバイスを試してきた同社が、最後に辿り着いたオールインワンビデオバー『Jabra PanaCast 50』。取り付けも接続も簡単で、アフターサポートまで手厚いという。会議室向けのWEB会議デバイスを探す際には、ぜひ一番に検討したいデバイスだ。

